



ザ・シンフォニエッタ
創立20周年記念
第20回演奏会

2006年3月5日(日)
熊本県立劇場
コンサートホール

主催 ザ・シンフォニエッタ
助成 公益信託くまもと21ファンド (財)熊本県立劇場
後援 熊本県 熊本県教育委員会 熊本市 熊本市教育委員会
熊本日日新聞社 NHK熊本放送局 RKK TKU KKT
KAB FMK 熊本シティエフエム

ごあいさつ

本日は、私どもザ・シンフォニエッタの創立20周年記念 第20回演奏会においていただき、誠にありがとうございます。結成以来、今日まで活動を続けていくことができたのも皆様の温かいご支援のお陰であり、厚く御礼申し上げます。

1986年1月に坂本一生氏（本オーケストラの初代代表・今回12年ぶりに出演）の呼びかけで集まった40数名によって出発したこのオーケストラには、いくつかの基本方針があって、そのひとつに、ひとつのプログラムをじっくり練習して本番ステージに臨むということがあります。そのため、創立からしばらくは演奏会と演奏会の間が1年を超えることも珍しくはなく、メンバーにとっては演奏する曲に対する愛着が深まるものの、皆様に演奏を披露する機会が少なく、その存在を認識していただくことがなかなか難しかったように思います。

そのような時期に、外に向かってはこのオーケストラの存在を、内に向かってはこのオーケストラがどうあるべきかを強烈に認識させることとなった第3回演奏会を指揮していただいたのが、今回指揮をお願いする山下一史氏です。今回も、練習のときばかりでなく、それ以外の会話の中でも、非常にたくさんのことについて方向と可能性を示していただき、メンバー一同、その豊かな音楽性や的確な指揮ばかりでなく、人間性に厚い信頼を寄せており、オーケストラとして最も尊敬している方です。

その山下氏が今回の節目の演奏会での共演をお膳立てしてくださったソリストがお二人です。若林顕氏は、プロフィールにもあるとおり、日本国内外を問わずご活躍なさっている方ですが、今回の演奏会のために、オーケストラとの練習においていただいた際には、私どももそのあまりにも素晴らしい演奏を目の当たりにするとともに、飾り気のない暖かなお人柄に接し、改めて共演していただけるよろこびを感じ、オーケストラとしてもよりよい演奏をしたいとの思いを更に強く持ちました。また、一方の合志知子氏には、第8回演奏会で協奏曲を共演していただくなど、馴染みが深く、久々に一緒していただけることを嬉しく思っています。

この20年間、決して安定した歩みを続けて来たわけではありませんが、最近合唱団の方などから合同演奏等のお誘いをいただくことも増え、演奏の質の向上と運営の充実について更に努力して行かなければならないと思っています。

本日のプログラムは、派手さはありませんが、ひとつの節目の演奏会として、これからの活動への新しい一歩とすべく、1曲1曲私どもの想いを込めて演奏します。素晴らしい指揮者・ピアニストのお力もお借りしますが、必ず皆様にご満足いただける演奏をいたします。どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。

2006年3月5日

ザ・シンフォニエッタ メンバー一同

Program

ウェーバー ◆ 歌劇『オベロン』序曲

モーツァルト ◆ 2台のピアノのための
協奏曲変ホ長調k.365

休憩

メンデルスゾーン ◆ 交響曲第5番二短調
op.107『宗教改革』

指揮 ◆ 山下 一史

ピアノ ◆ 若林 顕
合志 知子

管弦楽 ◆ ザ・シンフォニエッタ

profile

◆ 山下 一史 (指揮) ◆
Kazufumi Yamashita, Conductor



1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、(故)森正の各氏に師事。

1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。

1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝する。

1985年12月からヘルベルト・フォン・カラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントをつとめ、86年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急遽、急病のカラヤンの代役として、ジーンズ姿のまま「第9」を指揮し、話題となった。その成功以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約、以後、デンマーク放送交響楽団、ライナス交響楽団、ソンドーイルランド交響楽団などを指揮、着実にヨーロッパでの実績を重ね、1993年から1998年までヘルシンボリ交響楽団(スウェーデン)の首席客演指揮者をつとめた。1998、1999年と連続して、スウェーデンの名門、マルメ交響楽団の定期公演、1999年3月にはオーケランド交響楽団(ニュージーランド)の定期公演に出演した。

日本国内では1988年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮してデビューを飾り、以後、国内の主要オーケストラに定期的に出演し、好評を得ている。NHK交響楽団の副指揮者(88年～95年)、オーケストラ・アンサンブル金沢のプリンシパル・ゲスト・コンダクター(91年～93年)、九州交響楽団の常任指揮者(96年～99年)をつとめた。現代作品の演奏にも定評があり、1996年日本音楽コンクール作曲部門の指揮において審査員特別賞を受賞した。大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスでは2001年夏のモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》公演に続き、2002年夏のモーツァルト《魔笛》公演、2003年春のレオンカヴァルロ《道化師》、夏のモーツァルト《フィガロの結婚》、秋の松村禎三《沈黙》、2004年夏の《ドン・ジョヴァンニ》、同年秋の《ヴォツェック》はそれぞれ高い評価を得ており、本格的なオペラ・プロジェクトへの意欲に満ちた取り組みに、ますます大きな注目を集めている。

2002年4月よりオペラハウス管弦楽団常任指揮者を務めている。

ザ・シンフォニエッタでは、1989年から1993年の4年間のあいだに第3回演奏会を皮切りに第4回、第5回、第6回、西合志演奏会の5回の演奏会において指揮者をつとめた。また、第3回の演奏会がきっかけで、熊本県立劇場において指揮法セミナーを開催し、熊本の音楽教育に大きな功績を残した。その指揮法セミナーにおいて、ザ・シンフォニエッタはモデルオーケストラを勤めた。昨年10月より熊本日日新聞に「もっと気軽にクラシック」というコラムを連載中。

◆ 若林 顕 (ピアノ) ◆

Akira Wakabayashi, Piano



ベートーヴェンやブラームスなどの正統的なレパートリーにおける奥深いアプローチに定評があり、近年ラフマニノフなどでの濃いロマンティシズム溢れる劇的な表現力も高く評価されている。若林顕は、限りない可能性を持つ大型ピアニストとして、今最も注目を集めているピアニストの一人である。

2002年10月カーネギーホール/ワイル・リサイタル・ホールにリサイタル・デビューを果たし、好評を博す。同年2月にはトロントにて Music Toronto Chamber Music Series、2004年1月にはフランスにてナント音楽祭に出演、2003年4月にはシカゴのマイラヘス=リサイタル・シリーズにて大成功を収め、2004年6月に同シリーズに再び招かれ、また、2005年5月にはマンチェスターの「ノーザン・カレッジ・オブ・ミュージック」にてマスタークラスを行うなど、国際的な活躍の場を広げている。

東京芸術大学を経て、ザルツブルク・モーツァルテウムおよびベルリン芸術大学院卒業。田村宏、ハンス・ライグラフの各氏に

師事。1982年第51回日本音楽コンクールピアノ部門第2位。留学中の1985年、第37回ブゾニ国際ピアノコンクール第2位入賞。さらに1987年には、弱冠22歳でエリザベト王妃国際コンクール第2位受賞の壮挙を果たし、一躍脚光を浴びる。

日本のみならず世界各地でのリサイタルの他、NHK交響楽団、スコティッシュ・チェンバー・オーケストラ、パドゥーラ管弦楽団、リンブルク交響楽団、エーテボリ交響楽団、ノールショッピング交響楽団、ロシアナショナル管弦楽団、等とも共演を重ね、その確実な技巧と音楽に対する真摯な姿勢は、国内外の指揮者、オーケストラからの信頼も厚い。

クラリネットのカール・ライスター、オーボエのフランソワ・ルルー、ホルンのラデク・パボラク、チェロのステイーヴン・イッサーリス、ウィーン八重奏団等との共演など、室内楽にも定評がある。

2005年1,3月には「ショパンとラフマニノフの世界」と題したリサイタル・シリーズをトッパンホールにて行い、「・・・音楽へのイマジネーションの豊かさと、男性的な圧倒的なパワーをも示して、まさに充実のコンサートであった」など、多くの好評を得た。録音では現在ライブノーツ・レーベルより、『ブラームス：ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ』『ラフマニノフ・リサイタル ライヴ・イン・紀尾井ホール』『ストラヴィンスキーのペトルーシュカより3章』などがリリースされており、今後も意欲的な制作に取り組んでいく予定。

絶えず音楽の本質に正面から向き合い、その詩情溢れるダイナミックな表現力で、将来がますます嘱望されている。

1992年出光音楽賞、1998年モービル音楽賞奨励賞、2004年ホテルオークラ賞受賞。

◆ 合志 知子 (ピアノ) ◆

Tomoko Gohshi, Piano



福岡女学院高校音楽科を経て、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。

1985年ジョイントリサイタル、1994年リサイタル開催。

1995年ザルツブルク市の祝祭小劇場でのジャパンウィーク コンサートに出演。

九州交響楽団 (1988年、2003年)、大阪シンフォニカー (1991年)、福岡市民オーケストラ (1989年)、ザ・シンフォニエッタ (1995年) とベートーヴェンの第3番、第5番「皇帝」、ショパンの第1番、モーツァルトの第21番、グリーグのピアノ協奏曲を共演。

室内楽では、1995年篠崎史紀氏とデュオ、1996年同氏を中心とするメンバーとドヴォルザークのピアノ五重奏曲を共演。

1999年熊本市にて久合田緑氏、北本秀樹氏を中心とするメンバーと、又福岡市にて生沼晴嗣氏、嶺田健氏を中心とするメンバーとシューマンのピアノ五重奏曲を共演。

2001年松本市にてファブリツィオ・メローニ氏、フランチェスコ・ディ・ローザ氏 (共にミラノ・スカラ座オーケストラ首席奏者) とベッリーニ、ドニゼッティの三重奏曲等を共演。

また、オーケストラのピアニストとして九州交響楽団に客員して

いる。松浦豊明、居石聡子、杉山千賀子、北川暁子、富山紀美子の各氏に師事。現在、平成音楽大学講師、玉名演奏者協会会員、玉名市民合唱団伴奏者。

第1 ヴァイオリン

- 石崎 良子
- 井手本 ゆりこ
- 浦中 有紀
- 清永 健介
- 定永 明子
- 瀬畑 健雄
- 多賀 美紀
- 黒葛原 康子 ※
- 東家 容子
- 廣瀬 卓
- 益田 久美
- 松本 晋也

ヴィオラ

- 和泉 希代子
- 太田 由美子
- 吉良 純平 ※
- 田代 典子
- 辰野 陽子 ※
- 中澤 康子
- 毎床 一寿
- チェロ
- 坂本 一生
- 関 栄
- 瀬畑 むつみ
- 東家 隆典
- 深松 真也
- 杉本 幸二

フルート

- 泉 由貴子
- 中澤 邦男
- オーボエ
- 橘 徹
- 松本 聡子 ※
- 吉田 千草
- クラリネット
- 福島 由貴 ※
- 府 高明子
- ファゴット
- 柴田 義浩
- 星出 和裕

ホルン

- 伊藤 友美
- 奥羽 朋子 ※
- 川崎 華奈
- 田中 禎子 ※
- トランペット
- 出口 文教
- 福島 敏和
- トロンボーン
- 児嶋 美穂 ※
- 寺本 昌弘 ※
- 右田 順二 ※

第2 ヴァイオリン

- 大宮 協子
- 大宮 伸二
- 岡本 侑子
- 可児 孝英
- 清永 育美
- 武智 久子
- 富奥 史子
- 山口 祐子
- 山下 純子
- 柚原 三弥子 ※

コントラバス

- 桑原 寿哉 ※
- 竹内 尚志
- 歳田 和彦
- 中川 裕司 ※

コントラファゴット

- 蓮沼 昇 ※

ティンパニ

- 福島 好 ※

トレーナー

- 山本 俊之

※は賛助出演

◆歌劇「オベロン」序曲 ウェーバー (Carl Maria Weber)

作曲家ウェーバー(1786年～1826年)は、ドイツロマン派音楽の開祖として、有名な「魔弾の射手」をはじめとする歌劇を中心に、多くの室内楽の名曲も残した作曲家です。本日演奏する序曲は、ロンドンのコベントガーデン歌劇場からの新作依頼にもとづき、1825年に作曲した歌劇「オベロン」の序曲で、1826年4月にロンドンで初演され好評を博したようですが、そのわずか2ヵ月後にウェーバーは、当地で客死したため、彼の最後の歌劇作品となっています。この序曲は世界中のオーケストラのレパートリーとなっていますが、残念ながら、現在歌劇全曲が演奏されることは、ほとんどないようです。

この歌劇は、ドイツ人ヴィーランドがフランスに伝承される妖精伝説を叙事詩にしたものを、さらに英訳台本とした独・仏・英の三国合作もの歌劇です。妖精の国の王オベロンが王妃と男女の愛について口論となる(そないな愛があるわけおまへんやろ?(*´ε`*)ノ多☆--- いや、絶対ある!おまえとは口きかん!、(井`ハ`ノ)が、最後には苦難と試練を”魔法の角笛”で無事乗り越えた理想の”冬ソナ”カップルを見つけて、無事王と王妃は和解するというものです。

序曲は、オベロン王や”魔法の角笛”を象徴するホルンで幻想的な妖精の世界が幕を開け、嵐や船の難破あり、最後は愛の勝利を高らかに讃えて終わります。さあ、舞台をよく見てみてください。妖精がたくさんいますよ。(楽器を持った妖精が!そして魔法の角笛を持った妖精は曲の頭からとても責任重大なものでした・・・)

◆2台のピアノのための協奏曲 10番 (kv.365) 変ホ長調

モーツァルト (Wolfgang. Amadeus. Mozart)

モーツァルト(1756年～1791年)がこの協奏曲を作曲したとされる1779年は、約1年半にわたるマンハイム、パリへのリクルート活動の目的が達せられぬまま、父レオポルドの命により、気の進まぬザルツブルグへ帰郷した年でした。父の見つけた宮廷オルガン奏者の職にはついたものの、失意の時代に作曲された協奏曲です。しかしながら、モーツァルトの作品は、私生活が逆境であればあるほど、音楽は華麗であり、底抜けに明るく、楽しすぎて悲しいのです。

この協奏曲はモーツァルトが自分(第二ピアノ)と姉のナンネル(第一ピアノ)と二人で弾く機会があったために作曲されたようです。本日のソリストでいうと合志さんが「姉ナンネル」、若林さんが「弟モーツァルト」ということになります。また同じ変ホ長調の有名な「ヴァイオリンとピアノのための協奏交響曲(kv364)」も本日の協奏曲と同年に作曲されていますが、こちらでも、モーツァルトはピアノを弾いたようです。

第一楽章 二台のピアノソロが華麗かつスリリングなコンチェルタンテ(協奏的)、オケは競争的にならないで!

第二楽章 素敵なメランコリー、天上の調べのアンダンテ

第三楽章 雲が晴れたかのような、軽快なロンド

(文責:Vc東家)

◆交響曲第5番二短調Op. 107「宗教改革」

メンデルスゾーン (Felix Mendelssohn-Bartholdy)

メンデルスゾーン(1809年～1847年)は、12～14歳の頃、自宅で開催された音楽会のために12曲の「弦楽のための交響曲」を書きました。本格的な管弦楽のための交響曲第1番は、草稿に「交響曲第13番」と書かれていました(15歳の作品です)。彼は12歳の時ウェーバーに会って強い感化を受けるとともに、ベートーヴェン、ハイドン、モーツァルトにも影響されました。本日の演奏会の前半、ウェーバー、モーツァルトという彼にとっての先生たちの作品が演奏され、後半、「さて、メンデルスゾーンはいかがでしょう。」という風に聴くのもおもしろいかもしれません。

交響曲第5番「宗教改革」は21歳の年に完成し、5つの交響曲の中では2番目の作品ですが、演奏の機会があまりなく、彼の生前には出版されませんでした(有名な「イタリア」もなぜかお気に入りではなく、やはり生前には出版されていません)。

作曲家本人はお気に入りではなくても、私は大変お気に入りです。特に第4楽章、フルート1本のコラール(ルターが作ったといわれる)が管楽器を中心に折り重なっていき、クラシックらしからぬ強烈なロックのようなリズムになるあたりはワクワクしてきます!

第1楽章はレの単一音で始まり(二長調)、次第に音が分かれていきます。すぐに管楽器がコラール風に応じますが、二分音符1つ1つにクレッシェンド、ディミニエンドの表現がなされている楽譜はあまり見たことがありません。人間の声のような表現がほしかったのでしょうか。序奏の最後に2度「ドレスデン・アーメン」が現れ、主部(二短調)に入ります。ここの「ドレスデン・アーメン」でヴァイオリンが初めて音を出すのも、混迷の中の一筋の光のように思えます。後半、再び「アーメン」が現れ、再現部、終結部となります。

第2楽章はスケルツォ的な楽章です。チャーミングな第1部、田園的な中間部のトリオ、そして再現部の3部形式です。

第3楽章は弦楽器を中心に歌われるエレジーです。1stヴァイオリンの美しい旋律を引き出すべく他の弦楽器が伴奏し、時々管楽器があいの手を入れます。この楽章は静かに結ばれますが、低弦だけはのばされ、第4楽章冒頭のコラールへと続きます。

第4楽章は前述の通り、強烈なリズムとコラールによる盛り上がり最大の魅力です。果たして”マエストロ山下”は熊本のこのアマオケを使って、どのように仕上げるのでしょうか?お楽しみに。

この曲は評論家や研究者からは決して傑作には挙げられず、むしろ未熟な作品とされていますが、音楽は評論家たちのものではありません。厳かさ、旋律の美しさ、リズム感、ドラマ性……若々しく張り切った青年メンデルスゾーンの姿が見えるではありませんか!

とは言え演奏される機会は非常に少ないですので、本日の貴重な機会にこの曲の魅力が伝わり、今後皆様の「お気に入りの曲」に加えていただくことができると願います。

(文責:Cb歳田)

ザ・シンフォニエッタ (The Sinfonietta)

20年のあゆみ

◆The Sinfoniettaの始まり

1986年1月に誕生したThe Sinfoniettaは、当時学生オーケをやっていた仲間達が卒業してもオーケストラ活動をやりたい、それも小さい編成のオーケストラ (Sinfoniettaという名前が「小さいオーケストラ」という意味です。) で、練習をたくさんしてアマチュアでもできるだけ質の高い演奏をしよう、という理想のもとにスタートしました。

そして1989年1月、第三回演奏会で指揮者の山下一史氏と出会い、その後のThe Sinfoniettaを決定付ける大成功の演奏会を行いました。それから山下氏や、安永徹氏、篠崎史紀氏との共演を重ねていきます。

◆第三回演奏会 ～The sinfonietta物語～

1984年と1986年に初代表坂本一生氏は音楽を聴くためヨーロッパを訪れ、ベルリンで山下氏と出会います。帰国後、NTT寮の友人宅を訪れた坂本氏は、NTTとKDDの違いを忘れてベルリンの山下氏に大胆に国際電話をかけ、そしてその電話がきっかけで……

第三回演奏会のことを坂本氏は自身のホームページ『WE LOVE N響』 (<http://homepage1.nifty.com/paris/>) のなかで、The sinfonietta物語と題して、坂本氏がベルリンで山下氏とめぐり合い、山下氏とベルリンフィルのコンサートマスター安永氏と主席チェロ奏者のボルヴィツキー氏を招いて演奏会を開くまでの、練習や宣伝活動の様、演奏会の日取りが決まるまでや当日のことなど様々なエピソードを記しています。

この2回の旅行の中で、坂本氏はウィーンではNHK交響楽団コンサートマスターの篠崎史紀氏とも出会います。篠崎氏との出会いはザ・シンフォニエッタにも熊本にもまた別のすばらしい音楽をもたらしています。

◆その後の活動 そして20回

1994年の安永氏らとの演奏会を最後に、創設者である坂本氏はThe Sinfoniettaを離れます。活動の中心人物を失ったThe Sinfoniettaは一時衰退の時期を経験しますが、その間いろいろな方のご協力を得て活動を続けてきました。中でも、ソリストとしてはもちろん、技術的にどうしても解決できない問題を抱えたときにトレーナーとして何度も指導に駆けつけてくださるNHK交響楽団の小野富士氏、第10回から第19回まで連続して10回の演奏会を指揮し、体力の落ちた我々を何とかもう一度育てようとしてご尽力いただいた指揮者の藤崎凡氏は、特に忘れてはならない方々です。山下氏との共演は1993年5月以来13年振りですが、この間、ことあるごとに励ましをいただいてきたこともThe Sinfoniettaが本日の演奏会を迎えることができる大きな力となりました。

そしてついには本日迎えた20周年記念第20回演奏会。今回の演奏会に向けての準備、そして本日の演奏を経験することで、多くのことを得たThe Sinfoniettaは、これからもより高い理想を目指して活動を続けていきます。

◆演奏会の記録

'87. 1.11 第1回演奏会
指揮：本名徹二 ピアノ：財津晴彦

モーツァルト/交響曲第40番短調
モーツァルト/ピアノ協奏曲第23番長調
ベートーヴェン/交響曲第2番長調

'87. 1.25 大分県山国町演奏会
指揮：本名徹二

シューベルト/「ロサ・ムンデ」間奏曲第3番
モーツァルト/交響曲第40番短調
ベートーヴェン/交響曲第2番長調

'88. 3. 6 第2回演奏会
指揮：チェンバロ：小林道夫

シューベルト/交響曲第5番変長調
バッハ/チェンバロ協奏曲第1番短調
ベートーヴェン/交響曲第1番長調

'89. 1.10 第3回演奏会
指揮：山下一史

ヴァイオリン：安永徹
チェロ：オトマール・ボルヴィツキー
ベートーヴェン/交響曲第2番長調
ブラームス/ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲短調

'90. 3.18 第4回演奏会
指揮：山下一史

ヴァイオリン：堀正文
モーツァルト/歌劇「魔笛」序曲
モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲第3番長調
モーツァルト/交響曲第39番変長調

'91. 7.20 第5回演奏会
指揮：山下一史

ヴァイオリン：安永徹
シューベルト/「ロサ・ムンデ」間奏曲第3番
モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲第5番長調
シューベルト/交響曲第9番長調
「サ・グレイト」

'92. 9.16 益城町演奏会
指揮：石川真也 お話：原武博之

モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲
メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」
ベートーヴェン/交響曲第5番短調
「運命」から第1楽章
メンデルスゾーン/交響曲第3番短調
「スコットランド」

'93. 5.22 西合志町演奏会
指揮：山下一史

ヴァイオリン：篠崎史紀
メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲短調
ベートーヴェン/交響曲第7番長調

'93. 5.23 第6回演奏会
指揮：ヴァイオリン・曲目とも

22日と同じ

'94. 1.21・22 熊本シティ・オペラ公演
指揮：平山初喜

ブッチェ/歌劇「蝶々婦人」全2幕

'94. 7.23 益城町演奏会
ヴァイオリン：安永徹

ピアノ：市野あゆみ
メンデルスゾーン/ヴァイオリンとピアノのための協奏曲短調
モーツァルト/セレナーデ第7番長調「ソナタ」

'95. 4. 2 第7回演奏会
指揮：岩村力

ピアノ：合志知子
ワグナー/ジークフリート牧歌
モーツァルト/ピアノ協奏曲第21番長調
ベートーヴェン/交響曲第8番長調

'96. 2.12 第8回演奏会
指揮：岩村力

グリーグ/歌劇「アリスのイリュージョン」序曲
ストラヴィンスキー/管弦楽のためのシンフォニス
レズベキ/「リュートのための古代舞曲とアリ」第3組曲
ベートーヴェン/交響曲第5番短調
「運命」

'96.10.13 益城町演奏会
指揮：岩村力 フルート：一戸敦

ラヴェル/組曲「カプリスの墓」
モーツァルト/フルート協奏曲第2番長調
ベートーヴェン/交響曲第4番変長調

'97. 9.21 第9回演奏会
ヴァイオリン：篠崎史紀

グリーグ/協奏曲集「四季」
メンデルスゾーン/交響曲第4番長調
「イタリヤ」

'98. 6.21 第10回演奏会
指揮：藤崎凡

モーツァルト/歌劇「劇場支配人」序曲
モーツァルト/交響曲第41番長調
モーツァルト/「ジュビター」
ベートーヴェン/交響曲第1番長調

'99. 2.13 健軍東小学校演奏会
指揮：藤崎凡

ヴァイオリン：大宮伸二
モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲
グリーグ/協奏曲集「四季」より「春」第1楽章
L.モーツァルト/おもちゃの交響曲
ベートーヴェン/交響曲第6番長調
「田園」より第1楽章

'99. 2.21 第11回演奏会
指揮：藤崎凡

ベートーヴェン/ハ音楽
「プロメテウスの創造物」序曲
モーツァルト/交響曲第35番長調
ベートーヴェン/交響曲第6番長調「田園」

'99.11.21 第12回演奏会
指揮：藤崎凡

モーツァルト/セレナーデ長調
「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
プロコフィエフ/交響曲第1番長調「古典」
ハイドン/交響曲第104番長調「ロンドン」

'00.10.15 第13回演奏会
指揮：藤崎凡

ベートーヴェン/序曲「コリアン」
シューベルト/室内交響曲第2番
ベートーヴェン/交響曲第3番変長調
「英雄」

'01. 6.24 第14回演奏会
指揮：藤崎凡

ヴァイオリン：廣瀬祐子
ヴィオラ：小野富士
ベートーヴェン/序曲「レオノーレ」第1番
モーツァルト/ヴァイオリンとヴァイオリンのための協奏交響曲変長調
メンデルスゾーン/交響曲第3番短調
「スコットランド」

'01.11.10 小川工業高校演奏会
指揮：藤崎凡

ヴァイオリン：田中唱
ヴィオラ：大宮伸二
モーツァルト/セレナーデ長調
「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
モーツァルト/ヴァイオリンとヴァイオリンのための協奏交響曲変長調
ハイドン/交響曲第104番長調「ロンドン」

'02. 4. 7 第15回演奏会
指揮：藤崎凡

ハイドン/交響曲第103番変長調
「太鼓連打」
シューベルト/交響曲第9番長調
「サ・グレイト」

'03. 2.23 第16回演奏会
指揮：藤崎凡

モーツァルト/交響曲第29番長調
シューベルト/交響曲第8番短調「未完成」
シューマン/交響曲第1番変長調「春」

'03.10.26 第17回演奏会
指揮：藤崎凡 ヴィオラ：小野富士

デューリウス/楽園への道
ワグナー/グイワ協奏曲
ベートーヴェン/交響曲第5番短調
「運命」

'04. 7. 4 第18回演奏会
指揮：藤崎凡

ロッシーニ/歌劇「アリスのイリュージョン」序曲
ドビュッシー(ピョートル編)/小組曲
メンデルスゾーン/序曲「真夏の夜の夢」
ハイドン/交響曲第100番長調「軍隊」

'04.11. 7 NHK-BS2
「おーいニッポン」

私の・好きな・熊本県
指揮：出田敬三
出田敬三/火の国ラプソディ

'05. 2.13 第19回演奏会
指揮：藤崎凡

モーツァルト/交響曲第31番長調「ハリ」
カハレスキー/組曲「道化師」
ベートーヴェン/交響曲第4番変長調

'05. 5. 1 たけのこ町の

ドレミの広場(合志町ヴァイナル)
指揮：山本俊之
モーツァルト/交響曲第31番長調
「ハリ」第1楽章
カハレスキー/組曲「道化師」
出田敬三/火の国ラプソディ ほか

'05.12.10 熊本大学合唱団
創立60周年記念演奏会

指揮：蔵岡多可士
独唱：千葉慶子・関 優子
大島 博・岩本貴文
バグム/ミサ曲短調

'06.3.5 創立20周年記念
第20回演奏会

指揮：山下一史
ピアノ：若林頼・合志知子
シューベルト/歌劇「オ・ロン」序曲
モーツァルト/2台のピアノのための協奏曲
変長調
メンデルスゾーン/交響曲第5番短調
「宗教改革」

Interview

～ もうひとつの曲目解説 ～

8月、11月、1月、2月と指揮者の山下氏が来熊、また、ピアニストの若林氏、合志氏も1月から練習に参加されました。そんな練習の後はオーケストラのメンバーとおいしいお酒と料理を囲んで耳にもおいしい音楽談義を聞かせてくださいました。

◆山下 一史氏の音楽のお話◆

◆ウェーバー：「オベロン」序曲

オペラのプレリュードというのはお客さんをそのオペラの世界に連れて行く役割があると思うけど、そういう意味でこの序曲は妖精の世界のお話である「オベロン」というオペラの雰囲気や序曲の中に凝縮しているね。曲の冒頭であんなに2小節ごとにフェルマータがたくさんあることだけでも普通の世界じゃないよね。まったく別世界。音楽会の入り口としてもびつたりだ。

◆モーツァルト：2台のピアノのための協奏曲

この曲では同じ節を二人が交替で弾くところが随所にあるけど、奏者によって微妙に違う。その違いを楽しもうよ。それにオケが敏感に反応しよう。

アマオケにとってコンチェルト、それもモーツァルトのコンチェルトをやるということは一番難しいことかもしれない。音を並べるだけでは音楽にならない。しかし、その困難に挑戦するチャンスが与えられているということだ。僕はわざと、わかろうがわかるまいが、いろいろ練習で言っている。それを全部理解しろ、ということではなく、ただ4分音符があるからといって、簡単にブンブン弾いてはいけない、ということをもみんなに知ってほしい。要するにそれは音楽の理屈なんだけど、その理屈を少しでも理解して演奏してみるとそれによって音楽が生き生きしてくる。

僕は音楽を演奏することと未知の言語を習得することはとても似ていると思っている。例えば人が未知の言語を習得するとき、やっぱり最低限の文法は必要でそれを理解していないとしゃべれないんだよ。英語を勉強しているとして単語をいくらたくさん覚えても、主語-動詞-目的語という順番などを知らないとなかなか人に理解してもらえない。

この曲でいい演奏をするには、音が少ないだけにモーツァルトの、あるいは音楽の文法・イディオムを理解することが重要だと思って練習でいろいろ言っているわけ。でも理解してしまえばあとは応用が利くよ。

◆メンデルスゾーン：交響曲第5番「宗教改革」

この曲は第5番ということになっているけど実際は2番目に作った曲で「スコットランド」や「イタリア」みたいに完成度は高くないかもしれない。けどやった人はだれもが「いい曲だね」っていう、そんな曲だね。

すばらしい曲だけど、名曲か？ときかしたら、それはクエスチョンマーク。けど僕の中に名曲というのがあるとしたら、それは自分自身が共感できる曲。そういう意味で「宗教改革」は僕にとっての名曲。演奏家は批評家ではないのだからそれが大事。自分がこの曲を演奏するときには誰にも負けない思い入れがあるぞ！みたいなものが。そういう音楽をできるだけ多く持つことが演奏家の武器だね。

●1楽章

この曲には内に秘めたエネルギーがふつふつと流れている。地味な曲だからといって地味に弾いていると誰も鼻も引っかけない。例えば1楽章の冒頭。ここのダイナミックはp(弱く)。でもただ弱く弾いてもあのスコアから音楽は生まれえない。それぞれのパートがしっかりとしたpで弾きながらビオラ、チェロと重なってくることによる音楽的な厚みが表現できて初めて音楽が生きる。

序奏の中に2回出てくるドレスデンアーメン。少なくともあれを宗教的なものだというのをみんな知っている必要がある。まさに神々しい光が照っている気がするね。

序奏が終わってアレグロ・コン・フォコの主部になり、8分音符の激しいところがあるよね。そこから速くなるんだけど、単に速度が速くなるのではなく、そこから音楽が動きはじめる。ロマン派でもっともっと自由で型にはまらない音楽で感情の赴くまま。主部の最初の堅牢な構築物みたいな音楽と8分音符で動き出すところを音楽家だったら同じテンポで弾けるわけがない。作曲家はいちいち書かないから我々演奏家はそれを楽譜から読んでいくんだ。

●2楽章

初めのうちはがちがちに合わせていたけど、少し余裕が出てきて楽になってきた。楽になると軽くなる。いい意味で適当でいいんだよ。合わせるために合わせるのではなく、流れで合わせる。

3拍子には2種類あって、指揮者が3つの拍まとめてを1拍子で取る3拍子(ワルツのような)と3拍を振る(三角に)3拍子。この曲は前者の3拍子で、流れを損なわないようにしたいね。

●3 楽章

この楽章はいかに拍を取っ払うかだ。最低限のわくは小節で、その中で伸びたり縮んだり自由に歌おう。

最初の2小節間のきざみは池に石を落としたときの波紋が広がるように。はじめに力を加えたら後はその勢いで行く。勢いが自然に緩んでいき一番緩んだところでヴァイオリンのメロディーが始まる。

メンデルスゾーンが若いときの作品だけに特にこの楽章にはまだ未熟な部分がある。とても短いし、言いたいことを十分には言い足りていない。しかし、それを補うのがわれわれ演奏家だね。盛り上げるところはもっと意識的に盛り上げないとだめだね。浸ってはいはだめだ。

それにしてもこのメロディーはすごくいい節だ！まさに「梅檀は双葉よりかんばし」だね。

●4 楽章

3楽章から移るときにチェロとコントラバスだけソの音を伸ばして残る不思議な緊張感。その意思を持ったソの伸ばしの上にフルートが出てくる。フルートから始まるコラールも美しいよね。宗教的な、そうまさに賛美歌だよ。

主部は神に対する賛歌！神様をたたえているわけ。全部が滲刺としていてよこびの音楽だね。フルート一本で出たテーマが最後にはオーケストラ全体に出てくる。これは、芝居に例えると、最初は一人の登場人物が神様をたたえる言葉を言い出し、だんだん人物が増えてきておしまいには登場人物全員で神様をたたえる！そういうイメージを豊かにしてほしい。それが音楽に命を吹き込み、それがお客さんに伝わり、お客さんの心を動かす。

◆若林 顕氏のモーツァルトのお話◆

モーツァルトの音楽は語り口が千差万別です。だからニュアンスを考えて弾くと非常に楽しいです。音は少ないけど本当にドラマチックですね。

初めてモーツァルトの糸口を見つけたきっかけは山下一史指揮オーケストラ・アンサンブル金沢で22番のピアノ協奏曲をやったときのことなんです。その時、オーケストラとピアノの全てが会話になりました！

ピアノがある仕掛けをやるとオーケストラが確実に反応して音楽が変わってきます。そういう意味で本当の対話になります。そうすると無理やり合わせるのではない、音楽的な共演ができます。

information

白磁絵付け教室・作品販売 アトリエ IKUKO



インストラクター資格コース募集
見学、体験を随時受け付けています
どうぞお気軽にお問い合わせください

〒862-0972 熊本新大江2丁目18-7
TEL&FAX 096-362-3154
<http://www.wpt-kumamoto.net/shop/ikuko/>



建築家と共に、思い通りの住まいづくりを。

どのような工法、ジャンルにも対応できる建築家が揃う、adc。
あなた自身の感性で住まいづくりパートナーを選べます。
約6,000冊の建築関連書籍を所蔵する書籍ラウンジを始め、
毎月開催される建築や生活に関するセミナーやイベントは、
あなたの思い通りの住まいづくりをサポートします。

adc 建築デザインセンター
熊本市田迎6-1-40
096-214-3411

<http://www.adcadc.jp>

あなたのくらしをちょっと豊かに

NPO(法人認可申請中)

くらしコンシェルジュ

プリザーブドフラワー・ビーズ等講師派遣・育成
セミナー・体験教室開催
まちづくり、社会参加支援 福祉サービス



〒862-0024 熊本市若山8丁目2-1
熊本県インキュベーション施設内
TEL 090-3655-8890
bagus@sf.kcn-tv.ne.jp

Rental Box Gallery Shop
&
Atelier



cube de art

〒860-0844
熊本市水道町4-1 アートビル1F
tel&fax 096-354-9456
IP phone 050-1398-2009
cubedeartkana@ybb.ne.jp

業務用印刷

印刷物デザイン企画/制作
名刺・パンフレット・会社案内・
リーフレット・DM・チラシデザインetc.

Design ゆう & くら

〒862-0976 熊本市九品寺6丁目7-15
TEL/FAX 050-3424-8423
design-yk@mac.email.ne.jp

時代の変化に合わせて

必要なものを 必要なときに 必要な分だけ

新鮮印刷

SCHOOL ALBUM & COLOR PRINTING

営業項目

スクールアルバム/ミニアルバム/学校案内/会社案内/ダイレクトメール etc

マツコロ 株式会社 松本コロタイプ光芸社

本社/〒862-0976 熊本市九品寺6丁目5-47 TEL (代表) 096-364-2271 FAX 096-362-2221

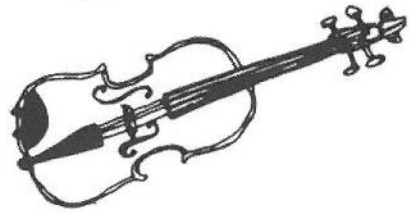
E-mail pr@matsucollo.co.jp <http://www.matsucollo.co.jp>

富士工場/〒861-4144 下益城郡富合町大字釈迦堂富合工業団地内 TEL 096-320-5055 FAX 096-320-5056

ヴァイオリンって 楽しいですよ

広瀬ヴァイオリンスクールでは
生徒を募集しています。

新しいヴァイオリンの仲間たちを、
もっともっと増やして、弦楽でなけ
ればできないような合奏を楽しみま
しょう



広瀬ヴァイオリンスクール

指導 広瀬 卓
日本弦楽指導者協会会員
The Sinfonietta コンサートマスター

西部教室 熊本市春日7-27-5
神水教室 熊本市神水1-8-9
TEL 096-352-9819



GALLERY TAKECHI

ギャラリー武智では、アートのスペースだけでなく
コンサートスペースとしてのレンタルもご用意しています。

ギャラリー武智

〒860-0844
熊本市水道町4-1 アートビル2F
TEL/FAX / 096-325-5848
携帯 / 090-7476-2951
開館時間 AM11:00-PM7:00 月曜定休



<http://www2.bbweb-arena.com/tgallery>
mail/tgallery@bbweb.com



加勢川橋歯科医院

歯科・小児歯科・口腔外科
院長 歯学博士 野田 信夫
副院長 野田 みぎわ

曜日	診療時間
平日	午前9時～午後1時・午後3時半～午後7時
土曜日	午前9時～午後1時・午後2時～午後5時
	日曜・祝祭日・第1・第3木曜日 休診
	第2・第4木曜日の午前中は障害者の方の専門診療の時間です

熊本市川尻6丁目5-7 (加勢川橋バス停前)
TEL: (096) 211-7572

木村医療器株式会社

〒860-8550

熊本市江越2丁目6番3号

TEL (096) 379-6060 FAX (096) 379-6070

ザ・シンフォニエッタ創立20周年記念

おめでとうございます。



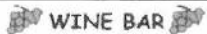
有限会社 熊本託麻義肢

福祉用具貸与事務所 (事務所番号 / 4370101315)
義肢・装具・車いす・リハビリ機器

代表取締役 永野 幸雄

〒861-8034 熊本市八反田2丁目1-49

TEL (096) 380-8673 (代)



De meli-melo

"le meli-melo" は、ワインの楽しさ・
美味しさを家庭的なお料理とともに気軽
に楽しんでいただけのお店です。月替り
のワインメニューの中からお好みのワイ
ンを見つけてください。
二人のソムリエがワインを楽しむお手伝
いをいたします。

熊本市上通町4-18
第二井上ビル2F
TEL/FAX 096-322-4020

"ル・メリ・メロ" は "ラ フティ
オーベルジュ" の姉妹店です。

洋食屋

TE-TSU

〒860-0844 熊本市水道町4-1-1F
TEL 096-351-1358

壺之倉庫
式ノ式
さくらさくら
YOKOBACHI

熊本上通
路地裏界限
遊・楽・歩・食
酒・肴・飯・菜



医療法人吉村会

あきた病院

診療科目

内科 代謝内科 耳鼻咽喉科
循環器科 皮膚科 整形外科
消化器科 形成外科 リハビリテーション科

〒861-4121

熊本市会富町1120

TEL 096-227-1611 FAX 096-227-2971

<http://www.coda.ne.jp/~akita/>

山本皮膚科クリニック

〒861-8043 熊本市戸島西3丁目2-48 (長嶺小学校・正門前)

Phone 096-331-1010 Fax 096-331-1088

yama-clinic@se.kcn-tv.ne.jp

We loves all musics and arts with their soul.
Go!! The Sinfonietta, 2006.



CHACONNE

DEALERS OF FINE VIOLINS

百年先まで届く響きを。



シャコンヌは、ヴァイオリンをはじめ、弦楽器のコンサルタントとして安心と信頼をお届けしています。
ご提供する楽器や弓は、ロンドンでのオークションをはじめヨーロッパ各地にて実際に目で見て吟味したものを輸入して揃えています。各店には、伝統的な修理技術をもとに日本の繊細な技術を生かした独自の基準をクリアした職人たちが常駐し、楽器本来の姿を取り戻します。また東京海上日動火災保険の代理店として楽器保険業務も行なっております。お客様が安心して演奏活動ができますよう、あらゆるご要望にお応えします。
地方展示会の開催や弊社担当者が全国各地を定期訪問、出張修理なども致しております。

<http://www.chaconne.info>

運命の一本との出会いがここに

弦楽器直輸入・修理調整・楽器・鑑定・楽器保険
株式会社 シャコンヌ

名古屋店

名古屋市中区栄2-11-19
熊田白川ビル3F
TEL 052-202-1776
FAX 052-202-2990

東京吉祥寺店

武蔵野市吉祥寺本町1-31-11
KSビル904
TEL 0422-23-1879
FAX 0422-23-1876

金沢店

金沢市広岡1丁目2-26
AGSⅡビル502号
TEL 076-221-1779
FAX 076-232-3249

九州小倉店

北九州市小倉北区
京町4-5-27
ステーションプラザ
小倉駅前5F
TEL 093-531-2672
FAX 093-531-2574

札幌店

札幌市中央区
北3条西1丁目1-1
パナソニックビル2F
TEL 011-221-2561
FAX 011-221-2562

ヴァイオリンレンタル
株式会社 カノン

名古屋市昭和区単人町9-1
ロイヤル秋中2F
TEL 052-834-4911
FAX 052-834-4912

【全店共通】 営業時間/10:00~18:30
定休日/日・月曜日
E-mail: chaconne@pop06.odn.ne.jp

次回演奏会のお知らせ

ザ・シンフォニエッタ合志市演奏会

～モーツァルト生誕250年を記念して～

日時：2006年11月19日（日）

場所：合志市総合センター”ヴィーヴル”文化会館

曲目：モーツァルト／ピアノ協奏曲第20番

二短調 k.466 他

指揮：小野 富士（NHK交響楽団）

ピアノ：吉田 秀晃

熊本モーツァルト協会との合同企画によるオールモーツァルトプログラムの演奏会を、合志市で開催いたします。どうぞおこしく下さい。